

小金井雑学大学

だより

第6号

平成11年5月20日発行

和気あいあいのうちに

一周年記念行事開催される

記念祝賀会もにぎやかに

四月四日、小金井雑学大学一周年記念行事が商工会館にて行なわれました。地球環境問題をテーマにした記念講演には、約七〇名の受講者が参加し、環境庁の初代地球環境部長をされた加藤三郎氏の講義に耳を傾けました。(講義の要旨は次号掲載)

記念講演の終了後、記念祝賀会が開催されました。平成一〇年度の精勤賞を六名の方が受賞され、田部井学長より賞状と記念品が授与されました。来賓として、四月から小金井工業高校に赴任された高間校長先生を初め、小金井市から大久保市長(当時)と藤田社会教育部長より暖かいご挨拶をいただきました。

祝賀会には、七名の教授の方々も参加いただき、ウイットの富んだスピーチは会場を大いに盛り上げました。この一年で理事・教授・学生の間で親近感が生まれ、和気あいあいの雰囲気で一周年を迎えられたのは大きな前進でした。お互いの親睦を深め交流を図ることも、雑学大学の目的です。

祝賀会の中で、話題になったのは、雑学大学の学生の皆さんが非常にまじめに講義を聴いているということでした。最近の若い大学



生は授業中の私語が多く、先生たちも悩みの種のようなのです。

二年目に向けて、新たに天野茂夫さんと原貞士さんの二名を理事に迎え、ますます充実をはかり、さらに多くの受講生のご期待に答えるよう気持ちを新たにしていきたいと思います。

第二十回講義 二月七日

『草食の思想』

日本人の特性を考える』

教授 國米家己三氏

二十一世紀は「グローバルイズム」が世界の合言葉になる一方で、

各民族がそれぞれのアイデンティティや個性を主張し合う時代になると考えられます。それぞれの民族が特性をもち寄って相互に補完し合い、よりダイナミズムのある世界の発展を志向する時代、といつてもいいでしょう。

そうしたときに日本人は、どのような個性・特質を世界に訴えるのか。日本民族とは何なのか。世界的次元においてどんな特徴をもっているのか。日本人自身が、よく理解し、把握しておかねばならないのはいうまでもありません。民族文化の基層をつくるものとして、まずその民族が生きてきた風土を上げることができず、主にどんなものを食べ、どんな手段でその食材を獲得してきたかにも十分、注目する必要があると思

います。太古、縄文人の暮らしが近年の

考古学の進歩によって一層鮮明になりつつありますが、それによると従来考えられた以上に縄文人は植物食（草食）に傾斜しており、

ある有力な考古学者は「（縄文時代は）世界で最も草食性の強い生活だった」と言い切っているほどです。

縄文以後も、明治に至るまで肉食忌避を貫いたのが日本人であり、それゆえに日本人の文化を草食文化という視点から分析してみることがも理にかなっているのではないのでしょうか。

日本人がきわめて勤勉であり、

ものづくりで卓越し、特異な感性と美意識を持ち、共生の自然観を古くから備えてきたことは、いまや世界に誇れるわれわれの特性ですが、これらは草食文化から由来するものと考えていいのではないのでしょうか。日本人は、力と

競争の価値観を持つ肉食文化の欧米人とは非常に異質な文化を伝統としており、二十一世紀はこれを実際社会にいかん主張し、強調していくかが私どもの課題だと考え

第二十一回講義 二月二二日

『苗字からルーツ』

先祖を探る』

教授 野中富雄氏

実在している。次に先祖探索方法を述べる。

二 図書館で、「姓氏家系大辞典」により自分の苗字を引いて出典略系、古記録等を抜粋する。古い故郷を知り「日本地名大事典」

一 私達は、突然生まれてきた訳でなく累代の人間の生きた歴史が、その存在の根源（ルーツ）となつていて。始祖以来、多くの先祖が子孫の為に汗と涙を流して来た事を知る必要がある。まず苗字から述べよう。苗字（名字、姓名）は、平安時代から形を整え人間（先祖）の生死事績の歴史を秘め語っている。日本人の苗字の八〇％は、地名から出ている。例えば田部井氏（タメカイ）は、群馬県

佐位郡田部井で遠祖は、源義家流の田部井経氏の系、名門源氏である。苗字の由来は自然地名や歴史地名がある。古代藤原氏は官職が

起源となる。庶民の苗字は隠し苗字として存在した。明治の新姓、

更には動植物の苗字や珍姓もある。日本の苗字の総数は約一八万

ある。わが国には名門四大姓氏の源氏、平氏、藤原氏、橘氏と古代

の氏、また武蔵七党武士団等で分

流の末裔が別姓を称し今や無数に

一 家紋大図鑑」等の関係文献で、

苗字、家系の歴史を掴む。先祖調査は『歴史学の法則』により偽系図にならぬよう正確に行う。同姓一族調査票や親族図表を作成する。戸籍除籍謄本や位牌、過去帳、墓石を遡及調査、人名等記録する。寺院や旧家、古老や郷土史家を訪ね教えを乞う。軍記や落人伝説、寛政重修諸家譜を活用して一族の動向を現地調査で確定する。こうして系譜に関する全ゆる

「金石分」の立証史料を収集と整理して、先祖名や事績、没年法名等を連結し和紙に図示、記載する。

三 忍耐の始祖累代先祖探究

は、念入りに時間をかける。『楽しみながら累祖と心の対話』を重ね定石に従って根気よく、努力の

結晶『家系図』は、一族の家宝として子孫に残せる。

教授 須知正度氏

外資を含めた金融業界の再編を日本では英国の証券ビッグバンに倣って日本版金融ビッグバンと呼んでいます。英国では証券業界だけがその対象でしたが、日本では銀行業、証券業、保険業、企業会計、外国為替管理、独占禁止法とその対象も広範囲にわたります。

ここでは、金融業界の再編を株主や債権者の立場よりも利用者の立場から見えていくことにします。

まず、何がどう変わるかです。①業態間の垣根をなくすつまりバリア・フリー②です。具体例は外国為替業務の自由化、銀行の投資信託販売等。②規模格差の調整をしないつまりノー・アレンジメント③です。具体例は株式売買手数料、損害保険料率の自由化等。③規制緩和つまりデュレギュレーション④です。具体例は証券総合口座、ラップ口座等金融商品設計/提供の自由化です。B.A.R.が無くなると理解してください。

次に、ビッグバンを必要とする背景についてです。①さらなる為

替リスク回避手段（外資決済におけるネットインク等）を必要とする国際的な事業を行っている製造業界の要請、②日本での事業参入を図ろうとする外国の圧力（国際標準化の要請）、③個人金融資産の囲い込みを狙う金融業界の圧力がその背景と考えられます。

最後に、最も重要な利用者への影響についてお話しします。金融ビッグバンの長所として、金融サービスの多様化や質的变化（ワン・ストップ・ショッピング化）及び金融商品の多様化（商品設計や提供の自由化）が進展するのは確実だと思えます。しかし短所として、情報提供サービスの有料化や運用競争による利用者のリスク負担増大（運用実績利回り商品の増加）が考えられます。言い換えると、金融機関と利用者が互いに相手を選別する時代になると予想されます。したがって、利用者は金融商品知識を身につけ、提供者に説明と情報開示を要求し、十分納得した上で自己の責任で資金性格に適した金融商品を利用することが肝要だと思えます。

教授 野瀬四郎氏

大正一四年三月二二日、日本でアメリカに続いて世界で三番目にラジオ放送が始まった。それまでの新聞報道による文字表現から、アナウンサーによる音声表現へと革命的な変化を迎えた。昭和二年には甲子園球場から野球放送が、昭和三年には大相撲の放送が始まった。昭和十一年にはベルリンからオリリンピック中継が行われ、『前畑、がんばれ』という有名な放送も歴史に残した。

ラジオは情景描写に優れたアナウンスも多くあったが、戦後にはアメリカの影響でラジオも大きく様変わりし、無制限であった時間帯が一五分毎に割り切って構成する方式へと変わっていき、余韻がなくなっていく。さらにテレビが情景描写というものを少なくした。

戦争報道、伊勢湾台風、平成天皇の成婚式、安保闘争、浅間山荘事件、阪神大震災、オウム事件と歴史の生き証人として、ラジオが

存在し、アナウンサーが存在した。

私のアナウンサー新人時代は、東京で始まり、その後、大阪で転勤生活をするが、昭和二十二年三月に初めてスポーツ放送を担当した。最初の一言に悩んだ思い出がある。スポーツだけではなく、色物と言われた文楽・宝塚・落語・漫才なども担当し、のど自慢のアナウンサーも経験した。二十九年二月、初めて国際マラソンのナマ中継が行われ、往々に情景描写・帰りにレース中継という基本スタイルを作り、実況を担当した。三九年の東京オリンピックの時はチーフアナウンサーとなり、自ら希望してマラソンのラジオ中継を行った。

その後、相撲の栃錦から学んだように『出処進退を潔く』という考えから東京オリンピックを最後に現役を引退し、自分で様々な試みをしたが、現在はNHK文化センターの講師や国立市で話し方勉強会を主宰している。指導の基本は『相手の立場にたつてものを言う。相手の立場にたつて考える』である。

今後のカリキュラム

6月 6日 「転んでもタダでは起きない海外旅行術」 竹田洋香氏 (エッセイスト)

6月 20日 「太平洋戦争への曲がり角—二二六事件を中心にして」

木村時夫氏 (早稲田大学名誉教授)

⑨場所変更—商工会館3F

7月 4日 「地方自治に携わって50年」 大久保慎七氏 (前小金井市長)

⑩場所変更になります

7月 18日 「快適な住まいづくり」 巨理鐵哉氏 (一級建築士)

8月 1日 「老婚のすすめ—孤独なくして生きがいを」 小俣英五氏 (東京都行政書士)

- ・教室は小金井工業高校会議室。但し、学校の都合により変更になる場合がありますので、ご注意ください。時間は午後2時～4時です。
- ・スリッパをご持参下さい。
- ・平成11年度の学生登録を受け付けております。年会費2000円。カリキュラムや学報をお送りします。



精勤賞は八割以上の出席をした方に贈られました。平成10年度の受賞者の方々は次のとおりです。

天野 茂夫さん
木下 嘉行さん
白倉 正義さん
萩原 一枝さん
三関 一さん
村杉 清和さん

(あいうえお順)

編集後記

春は何かと忙しく、学報六号の発行が遅れたことをお詫びいたします。

小金井雑学大学は二年目に向けてスタートしました。今年は教室の授業を中心にしながら、屋外へ出たり、学生同志の親睦をはかったりしていきたいと思えます。

発行責任者 五十嵐京子
小金井市本町

B&FLX

(夜間)

